

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)なんてん共働サービス	代表者	中村定義	法人・事業所の特徴	認知症になっても 障害があっても いつまでも 住み慣れたところで 自分らしく みんなと一緒に 助け合って 暮らし続ける
事業所名	小規模多機能型居介護 樹林(きりん)	管理者	北村 睦美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	1人	1人	人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所 評価ができる人数を増やす	昨年度評価人数7名から8名に増やすことができた。スタッフの働き方により、一斉に取り組めないため、管理者が個別に説明しながら一緒に考えて評価ができた。スタッフ自身振り返りをすることができた。	事業所評価する人数を増やして取り組んでいることについて、良い評価。	評価・計画の意味を知らせる機会を作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	室内洗濯干場、もしくはコーナーを作る。 呼び出しブザーを交換する。	ブザーの交換が一部交換できた。 玄関などの写真や壁面飾りなど、スタッフがおとしよりと取り組みができています。	玄関の壁面は来客の方にも好評を得ている。スタッフが元気に挨拶できているとの評価。	室内物干しコーナーを作る。
C. 事業所と地域のかかわり	樹林の中での生活の質を高めて(いい雰囲気・入りやすい雰囲気づくり)、もっと地	運営推進会議の委員さんが外部評価にあたって事業所を訪問され、内容等を熱心に質問されました。	地域の人に何を知ってもらうのか具体的に知らせることはできていますかとのご質問。 今後は広報の内容に事業所の基	事業所の基本情報のみの樹林便りを作る。

	域の方に知って頂く。	地域の方への広報に樹林便りの発行をした。 樹林の窓に介護相談の貼り紙をし、介護の施設であることをアピールした。	本情報を伝える便りを作ることでより具体的に知ってもらえるのではないかとの意見があった。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	何気ない地域の日常生活に寄り添う。(近くの保育所にある桜をみにいく)	運営推進会議にて利用の方担当の民生委員さんが確認できた。 天気の良い日には近所を散歩したり、地域のイベントに参加できた。	地域の困りごとなどの情報がつかみ切れていない。	担当者会議に民生委員さんや組長さんの参加をお願いする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地藏盆を地域の方と一緒にやりたい。	念願の地藏盆が実現できた。 保育所の子どもたちも、保護者と一緒に参加できた。	継続していきたい行事である。	より広い地域の人たちが参加出来る地藏盆を企画する。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所の避難訓練の日程を38組の皆様にお知らせする。	3月の避難訓練はご近所にビラを配布したが、普段のお付き合いができないと参加してもらえない。	消防計画という名称で計画は立てているが、委員のみなさんには配布できていないので評価もしてもらえない。	消防計画(総合防災計画)を委員さんに配り、説明する。